

サンプル問題が示す単元づくり

10月17日付けの事務連絡で送付した全国学力・学習状況調査のサンプル問題は、実際の授業場面や日常生活の場面と関連付けられた設定の下、児童生徒の学習や思考の過程に沿って知識・活用を一体的に問う問題であり、新学習指導要領において、児童生徒に身に付けさせたい力やそれを実現するための授業改善のメッセージとなっています。本号では、国語のサンプル問題に基づいた単元設定の一例を考えます。



サンプル問題に基づく単元設定の一例

単元 「興味のある職業について調べ、スピーチでクラスに紹介しよう」

ねらい 目的に応じて、必要な情報を収集し、適切な情報を選択した上で、文章の内容を的確におさえて要旨を捉え、調べたこととそこから考えたことをスピーチで紹介する。

学習指導要領に示された学習過程		調査問題の問題文等	出題内容
第一次	話題の設定	大問リード文 谷口さんたちは、将来なりたい職業について調べ、クラスの中で紹介合うことにしました。	見通しをもつ
	情報の収集	一 資料を読んでいて意味が分からない言葉があったので、国語辞典を使って調べています。 二 【資料1】を読んだあと、もっと詳しく知りたいことがあったので別の本を探し、【資料2】を選びました。	辞書を用いて語句を調べる
第二次	内容の検討	三(1) なぜパン職人になったのかを調べています。【資料2】のどの段落を中心に読めばよいですか。 三(2) 【資料2】を読んでいます。どのようにしてパン職人になったのかを【資料1】の《パン職人への道》に当てはめて確かめることにしました。	目的に応じて情報を収集する
	構成の検討	四 【スピーチメモ】をもとに、友達とスピーチの練習をしています。 []に当てはまる内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。	要点をつかむ
第三次	考えの形成	四(1) 【スピーチメモ】をもとに、友達とスピーチの練習をしています。	目的に応じて比較しながら読む
	共有	四(2) 友達から【助言】をもらい、【スピーチの練習の様子】の——部を別の言葉に直すことにしました。	内容が明確になるよう事実と感想、意見とを区別する
			情報を関連付ける自分の考えをもつ
			語句を言い換える

サンプル問題は、適切な言語活動を設定し、児童の思考過程に沿いながら学習活動を計画的・意図的に配置し、目標達成を図る単元づくりを通して、児童に資質・能力を身に付けさせる必要性を示しています。また、三(1)と(2)のように、要点をつかむための知識・技能を確認した後、複数資料を関連付ける活用場面を設定するなど、本時のねらいを「知識の・技能の習得」もしくは「知識・技能の活用」の一方に焦点化し、単元の中に適切に位置付けることも大切です。